



ザ・レッドクロス みずうみ

日本赤十字社島根県支部 みずうみ赤十字奉仕団

「頭の下がる思い」

日本赤十字社島根県支部 事務局長 岸川慎一



本年四月、事務局長に就任しました。

余談ですが、私は昭和三十三年生まれで今年六十歳。奉仕団はそれ以前から活動されてきています。

私は、今年の三月に県職員を退職し四月からこの赤十字の道に関わらせていただいておりますが、

皆様の活動を拝見するにつけ、奉仕団をはじめ各種ボランティアや

県民の皆様方に支えられて赤十字

活動が行われている、ということ

をつくづく感じさせられます。私

も、機会あるごとに様々な募金

活動を行つていただけております。

この場をお借りして深く感謝

申し上げます。

よろしくお願ひいたします。

大塚委員長さんはじめ団員の皆様には、日頃から赤十字の活動に対しても深い理解と温かいご支援を頂き、心よりお礼申し上げます。

また、赤十字会員として赤十字活動資金となる会費へのご協力をいたしておりますことに、重ねまして深く感謝申し上げます。

みずうみ赤十字奉仕団は、昭和三十一年に石倉トミ氏を委員長に発足されて以来、永年にわたり地域に根差した様々な奉仕活動を地道に続けてこられたと伺つております。奉仕団の五十周年記念誌である「奉仕の道」五十年のあゆみ」を読み、また、四月の総会へ出席以降、その活動を実際に拝見させていただき、皆様方の尊い奉仕の道に触れ、改めて頭の下がる思い

大塚委員長さんはじめ団員の皆様には、日頃から赤十字の活動に対しても深い理解と温かいご支援を頂き、心よりお礼申し上げます。

また、赤十字会員として赤十字活動資金となる会費へのご協力をいたしておりますことに、重ねまして深く感謝申し上げます。

みずうみ赤十字奉仕団は、昭和三十一年に石倉トミ氏を委員長に発足されて以来、永年にわたり地域に根差した様々な奉仕活動を地道に続けてこられたと伺つております。奉仕団の五十周年記念誌である「奉仕の道」五十年のあゆみ」を読み、また、四月の総会へ出席以降、その活動を実際に拝見させていただき、皆様方の尊い奉仕の道に触れ、改めて頭の下がる思い

でいっぱいになりました。
余談ですが、私は昭和三十三年生まれで今年六十歳。奉仕団はそれ以前から活動されてきています。また、記念誌の中にお世話になつた恩師の顔を見つけた時には、あまりの懐かしさに胸が熱くなつたのを覚えております。
さて、近年、県内外を問わず大きな自然災害が多発しております。この度の「平成30年7月豪雨災害」に対しては、早々に奉仕団から大塚委員長をはじめ代表の方々が来所され、義援金を託していただきました。誠にありがとうございました。支部では発災後直ちに、物的支援として災害用毛布五百枚を岡山県支部にお届けしました。また、松江・益田両赤十字病院から医療救護班、広島県支部へ支援要員、こころのケア班をそれぞれ派遣するなど、マンパワーの支援を行うとともに、県内外からの義援金受付を行つていています。

パンフラワー「カラー」
浜田 光代

結びに、今後も引き続き、皆様方には「奉仕のこころ 花と積み」の精神のもと、くれぐれもご自愛いただきながら、素晴らしい活動を続けていただきますようお願い申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

びに義援金を託していくたゞくとともに、機会あるごとに様々な募金活動を行つていただけております。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

私は、今年の三月に県職員を退職し四月からこの赤十字の道に関わらせていただいておりますが、皆様の活動を拝見するにつけ、奉仕団をはじめ各種ボランティアや県民の皆様方に支えられて赤十字活動が行われている、ということをつくづく感じさせられます。私も、機会あるごとに様々な募金活動を行つていただけております。

平成三十年度 総会

四月二十四日（火）日本赤十字社島根県支部会議室に於いて、県支部から三名、団員十二名の出席のもと総会が開催された。

まず始めに赤十字奉仕団信条唱和、みずうみ赤十字奉仕団団歌斉唱、大塚委員長の挨拶と続いた。そして県支部の岸川事務局長より激励のお言葉を頂いた。次に表彰伝達式で「特別会員章」が原田美智子さんに授与された。

議事に入り、二十九年度の事業報告決算報告、三十年度の事業計画、予算が原案通り承認された。

最後に役員改選に当たり選考委員の佐藤さん、善波さんより案を示され、副委員長松本淑子さん、書記原田美智子さんが選出され、他の役員は留任で承認された。

総会終了後「ろんぢん」にて昼食会をし、午後は「山陰初の育児院創始者（福田平治氏）と盲唖学校設立者（妹の福田与志さん）の功績について」を聴講し、その後雨の中社会事業のゆかりの地巡りをして終了した。



赤十字のシンボル
イトスギ

表彰伝達

大塚委員長と岸川局長の挨拶に続いて原田美智子さんが特別会員章を受章、表彰されました。原田さんはみづうみ奉仕団に入団以来、病院ボランティアや乳児院ボランティア等々に積極的に取り組まれ、また今年度からはみづうみ奉仕団の書記として活躍していらっしゃいます。



特別会員章受章

山の地雷が埋まつており、今でも人を狙いつづけ、戦争が終わってもその国の復興を妨げています。

寒い中にもかかわらず、私達の呼び掛けに足を止め快く応じてくださった方の救援金三万七千三百円は日赤島根県支部を通じて地雷犠牲者救援活動に役立てられます。ご協力いただいた方に感謝申し上げ、地雷に苦しむ人がいなくなる世界を心より願っています。

地雷撲滅運動

対人地雷全面禁止条例（オタワ条約）加盟をよびかける「ちょうどキヤンペーン」も我々みづうみ奉仕団の取り組みとして長年続けてきました。か弱い蝶のひと羽ばたきが群をなして飛ぶと大きな影響を及ぼす、との考えから

一人一人が願いを込めてキヤンペーンに参加し、昨年は三千七百六十七羽を地雷撲滅運動に尽力されているリズムネットワークに送らせてもらいました。

紛争時に埋められた対人地雷は、大砲などとは違い一般市民を無差別に死なないように負傷を負わせ犠牲者に長い間苦痛を与えます。世界にはまだ沢

ちょうどキヤンペーン

対人地雷全面禁止条例（オタワ条約）加盟をよびかける「ちょうどキヤンペーン」も我々みづうみ奉仕団の取り組みとして長年続けてきました。か弱い蝶のひと羽ばたきが群をなして飛ぶと大きな影響を及ぼす、との考えから一人一人が願いを込めてキヤンペーンに参加し、昨年は三千七百六十七羽を地雷撲滅運動に尽力されているリズムネットワークに送らせてもらいました。

六月九日、日赤支部奉仕団委員長協議会に参加させていただきましたが、



JR 松江駅前での募金活動

みずうみ赤十字奉仕団だより



石橋博さんとゆかりの地めぐり

石橋博さんとゆかりの地めぐり
鳥取市出身で、松江で印刷業を営む福田平治さんを社会事業にかりたてたの

総会の日の午後に「山陰社会事業の父と呼ばれる福田平治さんとその妹で同じく社会事業に貢献した福田与志さんとのゆかりの地めぐり」に団員十一名が参加しました。

石橋博さんからお話を聞きまして、北田町の福田平治、与志記念館（旧愛隣館）で、お二人の業績について深く研究していらっしゃる

石橋博さんからお話を聞きまして、北田町の福田平治、与志記念館（旧愛隣館）で、お二人の業績について深く研究していらっしゃる

福田与志さんは小学校の教員であった身から、目や耳の不自由な子供の教育に深い关心を持ち、兄の平治の物心両面の支えもあって、明治三十八年に「私立松江盲唖学校」をスタートさせました。

石橋さんの懇切丁寧な説明を聞いた後、ゆかりの地めぐりを行いました。ゆかりの地は○最初の育児院（殿町・センチュリービル付近）○二番目の育児院（外中原町・阿羅波比神社の元宮司宅）○最初の盲唖学校（母衣町・法務局南側）○福田与志さんの胸像（西浜佐陀町の島根県立盲学校）等で、雨の中石橋さんの熱心な先導で、その当時の状況に思いをめぐらせながら回りました。

このちょうどちょキャンペーンについてみずうみ奉仕団としての取り組みを話しましたところ、他の二団体から自分たちも協力したい旨の発言がありました。他団体と活動が共有でき、また同時により多くの人が地雷犠牲者に救援の手を差しのべて下さることを嬉しく思いました。

（松本）

は、明治二十六年の大水害です。親を失い、衣、食、住に事欠く子供たちを見るにみかねて、明治二十九年に島根県で初めての児童養護施設「松江育児院」を開設し、以来、私財を投げうつて恵まれない多くの子供たちの育成に力を注いでこられました。



福田与志胸像の前で

「明治期の松江に居住した小泉八雲はその後の松江の観光業に多大な貢献をし、福田平治、与志兄妹は当時の松江の社会事業に幾多の業績を残した」と私の友人が話すのを聞きながら、福田兄妹についてはその内容を深く知る事なく過ごしてきました。

この度の企画で、偉大な先人の功績を知ることができたことに感謝し、みずうみ奉仕団の活動に福祉の心を持ち続けることの大切さを改めて感じました。

平成30年7月豪雨災害 緊急支援金贈呈



災害義援金の贈呈

七月上旬の豪雨により西日本、特に岡山・広島・愛媛は甚大な被害に見舞われました。土砂災害等により二百余名の方が亡くなり、数名の方が行方不明でまだ捜索が続いている。被災者の方にお見舞申し上げ七月二十七日、みずうみ赤十字奉仕団から日赤島根県支部を通して義援金を贈らせて頂きました。

全国赤十字大会に参加して

青木 八恵子



島根県の参加者

五月十六日、東京明治神宮会館において、平成三十年度全国赤十字大会が開催されました。今年は皇后陛下が名誉総裁としてご臨席される最後の大会でした。名譽総裁皇后陛下各名譽副総裁のご臨席のもと、全国の赤十字関係者千九百名、島根県からは十八名が参會し、みずうみ奉仕団からは浜田光代団員と参加させていただきました。とても厳粛な雰囲気のなかで式典が挙行されました。式典では個人、団体代表十三名に赤十字有功章、二名の方に社長表彰が授与されました。受賞された方々には皇后さまから直接賞状と有功章が手渡しされました。女性皇族方も授与が行われるたびに拍手をされ、その功績を称えてい

らっしゃいました。

実践活動報告では、名古屋第二赤十字病院副院長兼看護部長の伊藤明子氏が、長きにわたり紛争地域を含む国内外での看護活動や災害救助の取組みを報告さ

れました。伊藤氏は「フローレンス・ナイチンゲール」記章も受章されたすばらしい方でした。また東京都荒川区の中学校青少年赤十字メンバーの小林正英さんが、東日本大震災を機に防災意識の向上をはかり、地域の絆を大切に自分達が出来る支援活動の取組みについて発表。赤十字奉仕団員信条にある「すべての人びとのしあわせを願い陰の力となつて世界の平和につくす」

という言葉どおりの実践活動をされている受賞者の方々の活動に感銘をうけました。皇后陛下が退席される際に、皇太子妃殿下に手を差しのべられ、おふたりで客席に深くお辞儀をなさり妃殿下を紹介される仕草をされました。その時のご様子を『美智子皇后さまから雅子さまへの世紀のバトンタッチであつた』とテレビで放映されました。

平成元年から三十年間、日本赤十字社の名譽総裁としてお務めになられた皇后陛下のあと名譽総裁になられる雅子妃殿下にすべてを託するというお気持が読みとられ、会場はいちだんと大きな拍手の渦でした。私も心から感動し胸が熱くなり込みあげるものがありました。このような機会に参加し、忘れ得ぬ貴重な経験をさせていただきました。このように感謝しつつ緑多き神宮の杜をあとにしました。

古布ふきんづくり



ふきんづくり

十数年にわたって続いている古布ふきんづくりを今年も六月二十八日に行いました。自宅に眠っている古布を持ち寄り、ほぼA4サイズの大きさに切り、使ってくださる施設の方のことを思い誠意を込めて作業しました。この日は参加十二名、皆慣れた手つきでどんどん作っていました。みかん箱よりもちょっと大きめのダンボール箱に四箱余り。これはお年寄りの方の体拭きや、お尻拭きに使われると聞いていますので、身体に負担をかけないような優しいふきんに仕上げます。年度末八箱あまりを四つの施設に届けるとしても喜んでくださいます。地味な活動ですが、一人一人のこころが、陰の力が皆様の喜びにつながる、これこそ私達赤十字奉仕団員の信条

活動だと自負していきたいと思っています。(善波)

II 松徳学院高校との交流 II

災害時に於ける非常食作り

災害の多い昨今、被災された方を思うと胸がいたみます。私達にできることは避難所で過ごされている方々が少しでも快適な暮らしに近づけるようお手伝いすることだとおもいます。松徳学院の生徒さんとそういう話をしながら、非常食作りの知識・方法を学ぶ機会を毎年持つています。

平成二十九年十月の非常食作りの 生徒さんの感想文

◆先日はわざわざ松徳学院に来て頂き本当に有難うございました。私は普段あまり自炊などしないので、野菜を小さく切つたり、お米のたき方などうまくできない私に、「丁寧」に教えて下さり、とてもわかりやすく、みんなもわいわいと楽しく料理ができました。それに、ハイゼックスでご飯ができることがわかり、すごく印象に残っています。楽しい時間を有難うございました。

(O H女子)



ハイゼックスを使って

りたいです。本当に有難うございました。来年もお会いできるのを楽しみにしています。

(A S女子)

♥災害時の非常食つくりでわからなうことがあつたときに、みずうみ奉仕団の方が丁寧に教えて下さり、うれしかつたです。島根ではあまり災害が起きないからわからないこともありますたが、今回災害時に作れる料理を色々教えてもらつて、もしこれから災害が

◆赤十字社職員の方の話を聴いて、もしも自分の身に災害が起きたらどうしたらいいか、よくわかりました。そして、ハイゼックスでカレーライスをつくるカレーのつくり方は、普段と違う作り方で参考になりました。もし災害があつたときは、学んだことを活かしたいです。

をし、熱湯に入れることは普段やらないので、うまくできてよかったです。試食もおいしかつたです。今回の体験を忘れずに、今後も活かしたいです。

加藤喜美枝様
桜田和子様を偲んで・・・

平成30年度上半期事業報告

- 総会
4月24日(火) 日本赤十字社島根県支部
参加12名
講演・ゆかりの地巡り
「福田平治と与志の功績」石橋博氏
- 対人地雷犠牲者救援街頭募金
5月8日(火) JR松江駅前 37,300円
参加延17名
- 赤十字運動月間広報キャンペーン
5月20日(日) イオン松江店 参加5名
- 全国赤十字大会
5月16日(水) 明治神宮会館 参加2名
- 日本赤十字社島根県支部赤十字奉仕団委員長協議会
6月9日(土) 日本赤十字社島根県支部
参加1名
- 古布ふきんづくり
6月28日(木) 日本赤十字社島根県支部
参加12名
- 平成30年7月豪雨災害義援金贈呈
7月27日(金) 日本赤十字社島根県支部
参加5名
- 戦争犠牲者慰靈塔清掃・供養
9月28日(金) 緑山公園
参加9名



戦争犠牲者慰靈塔清掃・供養（緑山公園）

平成30年度下半期事業計画

- 松徳学院高校生とのふれあい交流会
10月10日(水) 松徳学院高校 (非常食作り)
- 健康生活支援講習・古布ふきんづくり
11月20日(火)
- NHK歳末・海外たすけあいフェア
12月16日(日) いきいきプラザ島根
- 年末義援金贈呈
12月
- ちょうどちょキャンペーン
12月～3月
- 松徳学院高校生とのふれあい交流会
2月
- 病院ボランティアメンバー交流会
2月
- 東日本大震災義援金募金活動
3月11日(月)

通年活動

- 松江赤十字病院ボランティア
- 松江赤十字乳児院ボランティア
- 高齢者施設訪問（古布ふきん持参）
- 赤十字社会員加入・会費募集
- 特別義援金、救援金贈呈
- 情報誌「レッドクロスみずうみ」刊行
- 役員会

ハイゼックスを使用した災害非常食の作り方

この非常食はハイゼックスという熱に強い袋を使用して作ります。

- 洗った米、約1合と同量の水を袋に入れて、袋の中に空気が残らないように空気を抜きます。
- 輪ゴム等で袋の口を固くしばり、沸騰した鍋の湯の中に入れて30分程度炊き上げます。
- 30分程で袋が浮き上がって出来上がり。その後、鍋の外に出て5～10分ばかり蒸らします。

あとがき

立秋が過ぎてなお暑い日が続きます。七月上旬の、西日本を中心に広い範囲で発生した記録的な豪雨による災害、追いうちをかけるように記録的な猛暑日が続きました。失われた日常を取り戻すために懸命な努力をされる被災された方々そして支援活動に従事される方々に心からお見舞を申し上げると共に、一日も早い復興を祈らずにはいられません。

さて、ザレッドクロスみずうみ第四十五号をお届けいたします。本号から、松本淑子編集委員長のもと新メンバーが担当させていただきまます。団員の皆様をはじめ多くの皆様のみずうみ奉仕団に寄せていたく声を広くお伝えし、より良い奉仕活動につながる情報誌となるよう努めてまいります。よろしくお願ひいたします。

(池田)

印刷所

株式会社報光社

編集委員

◎松本 淑子・梶原田美智子・小林七彩

+ (○八五三二一四二三七)

ザレッドクロスみずうみ第四十五号
発行者 平成三十一年九月三十日発行
松江市内中原町四十番地
日本赤十字社島根県支部内
みずうみ赤十字奉仕団 委員長 大塚 良子
池田 裕子 啓子